

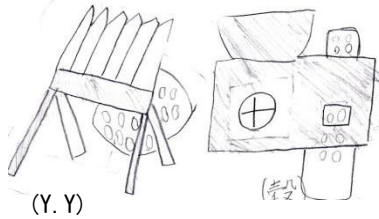
平成30年度 亥さん午さん達の田作り

～第12期大椎っ子田んぼ、第9期あすみっ子田んぼ 脱穀・風選・粃摺り編～

学校田んぼ最後の作業となる脱穀・風選・粃すり。昔、使われていた脱穀機や唐箕などで作業しながらその仕組みをじっくり観察し、昔の人々の知恵の結集に驚いていました。(一度しか見ていない道具をみな上手に描いてくれていることにビックリ。)また、すり鉢を使っての粃すり作業は大変だけど楽しいと大好評。わらなえも体験し、お米を収穫するだけでなくわらも無駄なく使いきることも学ぶことができたようです。

◎大椎っ子田んぼ (10月25日実施)

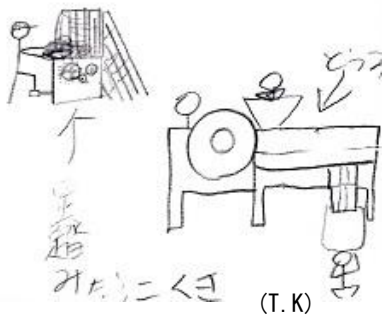
★脱穀をして一番大変だったことは、千歯こきなどを使っても取りきれなかった粃を手作業でとったことだ。昔はこのような機械がなかったため、私たちが



(Y.Y)

いかに楽しんでいるのかを実感した。中でも一番すごいと思った機械は風の力を使って重い粃と軽い粃とを分ける唐箕だ。粃を仕分けるだけではなく、脱穀作業でまぎってしまった葉っぱ藁くずなども風の力を使って飛ばすことができ、すごいと思った。(N.Y)

★一番おもしろかったことは、わらでなわを作ったことだ。長いなわを作った人もいたので、びっくりした。他にも唐箕は風の力で重い粃と軽い粃とを分ける機械でその仕組みがおもしろかった。粃すり機を使っても粃が取り



(T.K)

りきれなかったものをひろう作業がおもしろかった。千歯こきは稲たばを歯の奥に入れるのが難しかった。足踏み脱穀機を使うと少し踏むだけで機械がまわって稲束から粃がたくさん取れ楽しかった。(S.H)

★とても楽しかったのは、脱穀機で稲束から粃をとる作業をしたことだ。脱穀機がとても古いことにおどろいた。わらでなわを作ったことも楽しかった。最初はうまく作れなかったけど、だんだんできるようになった。3人で作る方法もあり、3人だと作るスピードも太さも太くできてすごいと思った。わらを使ってわらざうりやなわが作れて便利だと思った。いつも食べているお米ができるまでにはこんなに大変なんだと思った。残さず、食べようと思う。(S.M)



(H.N)

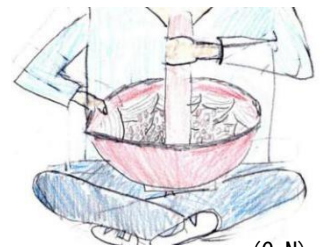


(N.Y)

★わらなえをしたことが一番楽しかった。自分の身長より長くできて、達成感があった。自分たちが汗水たらしで作ったお米がどんな味なのか楽しみだ。(S.S)

★足踏み脱穀機と千歯こきを使って脱穀を行なった。踏むのが少し疲れたけど、しっかり回ってうまくできた。千歯こきは足踏み脱穀機よりも大変だった。「昔の人の作業は大変なんだ」と思った。脱穀が終わり、みんなで藁なえをした。簡単な方法なのに、しっかりなえて、「昔の人のちえはすごいな」と思った。(I.S)

★脱穀には2種類の機械と唐箕という機械を使った。1つだけ電気を使うもみすり機もあった。昔は電気がなかったため、電気を使わないで、手間はかかるけど、お米を作れるなんて、昔の人はすごいなと思った。お米を作るのにこんなに大変なんだとびっくりした。自分たちで作ったお米はどんな味か楽しみだ。(H.O)



(C.N)

★一番楽しかったことは、唐箕の機械だ。唐箕は脱穀した粃やわらくずなどを3つの出口に仕分ける機械だ。まず、わらくずなどを風で飛ばす。残りの2つの出口には粃が出てくるがその違いは粃の重さだ。風で飛ばしながら重いものと軽いものとに分けられるそうだ。お米を作ることがこんなに大変だとは思ってもよらなかった。お米を残さずありがたみを持って食べたい。また、脱穀もしたい。(Y.S)



(K.O)

◎あすみ小 (10月29日実施)

★今日脱穀をして、お米一つ一つを大事に食べたいと思った。田植えから脱穀までやってきて、とても大変だった。でも農家の人は暑くても寒くてもずっとがんばって一年中やっているから、ぼくはお米が食べられる。そのがんばっている人たちの努力と大変さがしっかりわかったので、お米一つ一つを味わって感謝していきたい。ぼくも何でもがんばります。(R.M)

★一番心に残ったことは、とても小さかったいねがとても大きくなり一つのいねからたくさんのお米が取れたことと、いらなくなったわらでリースを作れたことだ。今度は今まで育てた米を食べたい。脱穀は米などを取る大事な作業だと分かった。いっぱい米が取れてビックリした。楽しかったです。(A.T)

★足ぶみ脱穀機と千歯こきでわらともみを別々にした。でも、少し残ってしまったもみを手で取るのが一番細かい作業だった。暑かったからつらかった。もみをもみすり機で玄米にした。たくさんゴミ(いらぬ部分)がふぶきみたいに出てきた。玄米をさらに精米して、米が食べられる。米が作られるのにここまでの作業が必要だと知れてよかった。(C.Y)



(M.S)

★足ぶみ脱穀機はふむ力を強くしないと速く回らないので、むずかしかった。千歯こきはあまりお米が取れなくて大変だった。次にもみすり機で玄米にした。唐箕には3カ所出口があり、一つはわらくずを出す出口だ。歯車を回すのも

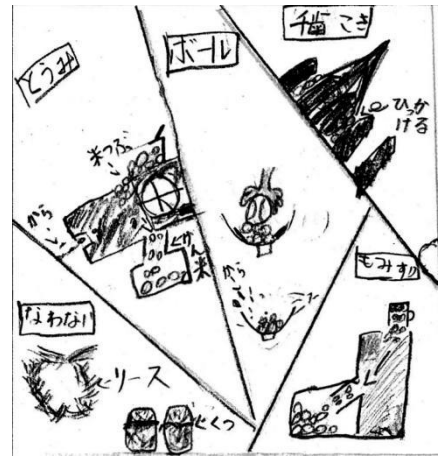
大変だった。最後に赤シャツおやじさんの話があって、あらためてお米が出来るまで長い事をしてきたんだなと思った。(C.M)

★人生初の脱穀は慣れなかったけれど、上手に出来た。お米は1年を通して苦労してできていると改めて感じた。今日の給食のお米は今までよりもっと美味しかった。ボランティアさんは慣れない私にわかりやすく教えてくださった。先生もありがとうございます。最後に、「人も虫も食べ物も雲も全ては太陽があるからだ。」と教えてくれた。今までも今日もすっごくやることがあり、いつも食べているお米は努力して作っているんだなと思い、大切にしたい。(A.S)

★足ぶみ脱穀機の中の黒いところがったものに稲の束をのっけて、押ししたり引いたり回したりしてもみを取ったり、束に残ったもみを手で取った。わらでひもをあんた。もみすりでは機械を使わずにボールでごますりのようにしてもみがらを取った。はじめてやったのでむずかしかったけど、とても楽しかった。(A.S)

★千歯こきは、思ったよりも力をいれて強くやらないともみが取れなかった。もみすりは、もみを入れたらげん米が出てくる機械だ。ボールでもみをすってもみがらを飛ばしてげん米にする作業もした。わらないではリースを作った。わらのくつをはいている人がいたので、色々な物が作れるんだと思った。(N.K)

★足ぶみ脱穀機はとても古そうで、足でレバーをふまないと脱穀する刃がまわらないので、むずかしかった。わらに残ったもみを手で取り、わらをきれいにまとめた。わらないをしてリースを作った。少しぐちゃぐちゃになったけれど、楽しかった。それからもみすり機で玄米にする作業をした。すりばちでもやったけど、大変だった。最後にとうみをやった。木できていて、ちゃんともみだけが取れた。昔の人の知恵はすごいと思った。本当に楽しかった。(M.S)



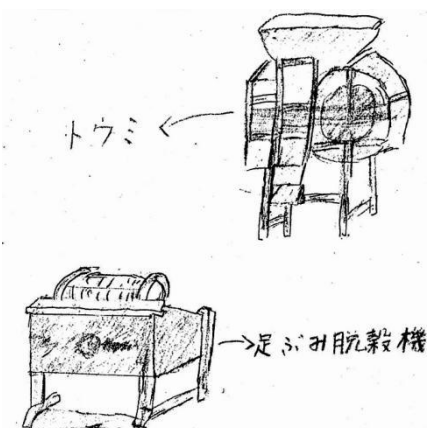
(N.K)

★千歯こきは思ったより力が必要だったけど、手伝ってもらい上手に出来た。足ぶみ脱穀機は、中が回っていねをあてるとかんたんにもみが取れた。脱穀の後はどうみをした。わらくずともみを分けられるのが「すごいな」と思った。最後にもみすり機やボールでもみ取りをした。もみすり機を使うと一瞬だったけど、ボールですって取るとけっこう時間がかかった。やっぱり道具は便利だと思った。今回も「大成功」した。(R.T)

★わらともみに分けるとき、何回も作業しなきゃいけないので、一番大変だった。たくさん機械を使って、一つ一つ心をこめてつくった分、おいしいお米が出来ると思い、一生懸命取り組んだ。一つぶを食べるのに1分もかからないのに、作る時は1年くらいかかるので、一つぶ一つぶ大切によく味わって食べようと思った。またやりたい。(H.I)

★もみすり作業は、もみをボールで押すやり方ともみすり機を使うやり方があると分かった。げん米をさわってみたら、サラサラしていた。とうみでは、ハンドルを回して風をおこし、もみとゴミに分けた。次に足踏み脱穀機で稲からもみだけを取った。足でペダルをふむと、とがった回転部分がとても早く動き、たくさんもみが取れた。最後に稲に残ったもみを取ったり、わらにまぎれたもみを取る作業をした。私は稲からげん米にするまでの作業はたくさんある事が分かり、とても大変なんだなと感じた。(K.N)

★機械や手を使って脱穀をする事が分った。稲からもみを取る機械がすごいと思った。二つ出来たので良かった。



(K.N)

ボールでもみからげん米にする作業も楽しかった。もみを取ったあとのわらでひもを結ぶのもやった。稲からもみを取るのが一番大変だった。今まで育てた稲を脱穀出来てよかった。天気や生き物たちのおかげで育てられた事も最後のお話で分かった。(R.K)



里山たんけんレポート

第226回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2018年11月4日(日)曇

林内ではフジツルなどに植菌したヒラタケがたくさん発生してきた様子を観察しました。足もとにはフコイチゴが赤い実を付けていて、摘んで口に入れ甘酸っぱい味を楽しみました。ヤブミョウガは青い実を一面に輝かせていました。谷津に出て先月に続きトンボの調査を兼ねて谷津を巡りました。ノハラアザミの群落、ただ一輪ひっそりと蕾をつけたリンドウ、シロヨメナは満開でした。サルトリイバラ、ノイバラは赤い実をつけ、タコノアシは赤く紅葉していました。スズメウリ、ヤマノイモのむかご、ヤナギタデなどを口にしたり、と深まった秋の谷津を楽しみました。

曇天でトンボは少なかったのですが31頭を捕獲しました。内、26頭は先月少なかったアキアカネでした。アキアカネが戻ってくる時は10月半ば過ぎが多いようです。

(大人11名、小学生2名、幼児2名 報告・写真 網代春男)



第228回 下大和田 YPP「古代米脱穀」

2018年11月3日(土)曇

今回も子ども君達が大活躍してくれました。

お年寄りの脱穀機、作業途中でちょっとトラブルりましたが幸い無事脱穀を終えることが出来ました。9月に日照がほとんど無かったことなどで実入りが悪く、残念ながら過去最も少ない収穫高になりました。午後はおだを解体整理しました。森のブランコのロープを張り替えました。子ども達は早速ブランコを楽しみました。

(参加 大人29名、小学生14名、幼児8名 報告 網代春男
写真 田中正彦)



第229回 下大和田 YPP「もみすり」

2018年11月17日(土)晴れ

千葉市農政センターで米作り最後の工程のもみすりをしました。もみを機械に入れるのは子ども達の役でここでも大活躍。周辺は自然が一杯、トゲナナフシ、アオオサムシ、コカマキリなどが子ども達の人気を集めていました。

今日、参加した方にはお米をお持ち帰りいただきました。早速、自分たちで作ったお米を夕飯で召し上がった方もいらしたでしょう。

(大人31名、小学生10名、幼児13名 報告 網代春男)

森と水辺の手入れ ―― 畦の補修 ――

2018年11月18日(日)晴れ

畦の補修に使う土取りをしました。林縁の土が流れて簡易舗装の上に乗ってしまっているのを取り除き畦に運びました。また、森のブランコの新しいロープに保護フィルムを巻き補強しました。

今日のお楽しみは今年2月18日の森と水辺の手入れの日に植菌した走りのナメコが収穫できたのでナメコと佐倉の朝市で仕入れたドンコの味噌汁が昼食時に用意されました。キノコと魚から出た出汁は美味しく何杯もおかわりして堪能しました。

(参加 大人8名、小学生2名、幼児2名 報告・写真 網代春男)



第165回・166回 小山町 YPP「緑米の稲刈り」「緑米の脱穀」

2018年11月10日(土)晴れ、23日(祝)晴れ

10日と23日で小山町 YPP の稲刈り、脱穀、唐箕がけが終了しました。唐箕の風選をくるくると回していると、受け軸と擦れて、キッ・キッ・キッ・・・と鳴りました。するとどうでしょう！どこからともなく、ジョウビタキの音が、ヒッ・ヒッ・ヒ・・・と、届きました。鳴く唐箕に呼ばれてくれたかは分かりませんが、穏やかな協演は、しばらく続きました。(11月10日 参加 大人4名：23日 参加 大人4名 報告 たんぽぽ)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月10日 コジユケイの群れ。(たんぼぼ)
11月23日 多くの秋虫も退場、夕方ギユイ〜ギユイ〜と鳴く旺盛な声(赤シャツおやし)
11月29日 りんどうの蕾がたくさん、アオキの実。(たんぼぼ)

下大和田

- 11月3日 リンドウが一輪蕾をつけていました。(網代)
11月5日 ヒラタケをたくさん収穫しました。(網代)
11月7日 ナメコを収穫しました。(網代)



アオキの実 撮影 たんぼぼ

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも) : ちば環境情報センター (TEL&FAX : 043-223-7807 E-mail : hello@ceic.info/)

- ご注意 : ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第230回下大和田 YPP「収穫祭」

緑米で餅つきをして収穫を祝います。正月用お飾りも作ります。

- 日時 : 2018年12月15日(土) 9時45分~14時 ☆雨天延期
場所 : 千葉市緑区下大和田谷津田
集合 : 現地9時45分 初めて参加する方は駐車場や会場を案内しますので事前に090-2301-0413(あじろ)までご連絡ください。
交通 : JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き、ちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間40分>料金540円
持ち物 : 弁当、お皿・お椀・箸、飲み物、帽子、軍手、敷物など
参加費 : 小学生以上一律300円、小学生未満無料。
主催 : ちば環境情報センター

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

林内の下刈りをします。ことぶき大学からの参加もあります。

- 日時 : 2018年12月16日(日) 9時45分~14時 ☆雨天中止
場所 : 千葉市緑区下大和田谷津田 交通 : (同上)
集合 : 現地9時45分 初めて参加する方はご連絡ください。(同上)
持ち物 : 弁当、飲み物、帽子、軍手、長靴、長袖長ズボンの服装、敷物など
主催 : ちば環境情報センター

▼第228回下大和田谷津田観察観察会とゴミ拾い

冬越しの鳥との出会いを求めながら谷津下流部まで巡ります。

- 日時 : 2019年1月6日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行
場所 : 千葉市緑区下大和田谷津田 交通 : (同上)
集合 : 現地9時45分 初めて参加の方はご連絡ください。(同上)
持ち物 : 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物。
参加費 : 100円(小学生以上、資料代など)
主催 : ちば・谷津田フォーラム、ちば環境情報センター



りんどうの蕾 撮影 たんぼぼ

▼第167回小山町 YPP「もみすい」

今年収穫したお米を「もみすり機」を使って玄米します。

- 日時 : 2018年12月9日(日) 10時~12時30分 ☆小雨決行
場所 : 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
持ち物 : 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。
参加費 : 100円(小学生以上、資料代など)
主催 : ちば環境情報センター

■編集後記 今号では、小学校の脱穀体験の声をお伝えしました。太陽と大地の恵みを得て、みごとに実った稲穂から、不思議な道具を使った更なる行程をへて、ようやく玄米が現れます。作業にとりくむ真剣な眼差し。つやつやな玄米が現れて弾ける歓声。藁を縛って出来上がった作品を誇らしげに掲げる姿。お米の一粒一粒には、そんな君たちのエネルギーもしっかりと詰まっているのだよ!(赤シャツおやし)